

ホーム名：医療法人 仁済会 グループホーム高石					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、唱和を行い職員一同で理念を共有しながら利用者様一人一人の暮らしを支えられる様に努めている。	《1. その人らしく生きがいのある暮らしのお手伝い。2. 生活のパートナーとして、お互いに支えあえるホーム作り。》を実践に向けて取り組んでいる。	理念は玄関に貼ってあるが、もっとよく見えるように、短い言葉に凝縮して掲示されるとホームの姿勢がさらにアピールできる。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアによるクラブ活動や定期的に慰問協力のお願いや地域活動にも参加している。	小学生・中学生がゲームをしたり、話を聞きに来てくれている。近隣の小学校の運動会には席を用意して下さって参列している。入居者は近隣の方なので散歩時等声をかけて貰っている。	ホームからも認知症セミナーや地域住人対象の介護相談会を開くことなどで持てる力を地域に還元することも考えてみられたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高石市地域密着型サービス連絡会・高齢者等・SOSネットワーク事業への参加をし、協力する事で「認知症になっても安心して暮らせる町」を目指して取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて状況報告を行い意見交換する事により認知症への理解が深まっている。家族様にも参加して頂ける様になってきた。	会議には高石校区福祉委員長（兼地域町会連合会長、）高石市地域包括支援センター、高石市社会福祉協議会、家族、職員の参加があり、議事録からは活発に話し合われている。市の担当部署に出席の要請はしているが出席していただけていない。	地域の方々は熱心に会に出席されホームとしても心強いと思われる。また市職員の出席に向け議事録を届け、次回の日にちをお知らせするなど努められたい。これからは外部評価も議題に取り上げて話し合われることを期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	定期的に市の担当課に訪問して、利用者状況の報告と相談をしている。又、高石地域密着型連絡会の情報からサービスの質に反映している。	地域密着型事業所の連絡会には市担当職員は出席している。ホームとしても困難事例などの相談・連絡には市担当者との話し合いは行っている。	連絡会と運営推進会議はおのずから主旨も目的も違っている。介護保険の現場を直接見ていただくことも必要である。市担当者の出席に向けて根気よく働きかけられたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会による研修に参加し、勉強会を開き、職員再認識を図り身体拘束ゼロのケアに取り組んでいる。	ホームの玄関は1階にあり、病院の入り口とは離れていて別にある。道から見えないところでもあり鍵をかけていることは致し方ない。身体拘束の研修などは行っている。毎日の生活の中で身体拘束はしていない。	現実的に玄関の施錠は防犯上も必要と思われる。広義的身体拘束について職員が正しく認識し、知っていることが実行出来ているか、時には勉強会や職員会議で再確認されたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人での研修に参加し協議して安心のある暮らしを提供出来る様に努めている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修に参加した事を、職員同士で勉強会を開き、実践する事により理解を深め支援している。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>運営規定及び重要事項説明書に基づき説明を行っている。改定の際には再度説明を行い同意書を頂いている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃の利用者様との会話などから、思いを組み取り、家族様訪問時に意見や要望を伺っている。それらを運営推進会議で報告を行い意見を頂いている。</p>	<p>家族会が年に2回あり、そのあとはアンケートをして要望はできる限る取り入れている。結果も張り出している。玄関の意見箱には記入用紙も準備してあるが、意見・要望が入ったことがない。</p>	<p>管理者は「家族が意見や要望を言い出しにくいのかとも思う」と話されており、日ごろから何でも言ってもらえる関係作りをさらに構築されたい。意見箱に第三者機関の苦情窓口（高石市、国民健康保険連合会）の電話番号を明記されたい。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>運営者は理念を実践する為の体制を常に撰っており、職員会議にて、職員の意見・提案を聞く機会を設けている。</p>	<p>職員会議は月1回ある。毎日「今日の気づき」を全入居者について発表し、提案されたことはやってみようと取り入れている。職員の価値観を大切に個人目標を出してもらい、共に考えるという姿勢で業務に反映している。</p>	<p>職員の働き甲斐につながる意見の汲み取りをされている。みんなで検討してより良いホーム作りをさらにすすめていただきたい。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>柔軟に対応した勤務調整を行い、法人内外での研修に力を入れ、職員に意欲を持って取り組める様に推進している。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員自らが向上心を持って働ける様に自己評価・目標設定を行い、スキルアップと目標が達成出来る様に面談時に、相談・助言を行っている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>高石地域密着型連絡会で連絡・相談を行い情報交換を行っている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前に面談を行う事で、生活暦や生活状況を知り、困っている事や不安な事を、把握した上で馴染みの環境に配慮するよう努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前に面談を行い家族様の思いを受け止め、出来る限り希望に添う様に努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>面談時に本人と家族様の希望を聞き、何が大切なのかを見極めてサービス支援計画を作成し、説明了解後、安心して頂ける様に随時思いを受け止め実施している。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>共に過ごす家族として、日々全職員は情報の共有を図り、喜怒哀楽を共にし、支え合っている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>日々暮らしの出来事を、家族様と共に共有しながら、互いに支え合える事が出来る様に支援している。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みのある環境や大切な人を把握して、これまでの関係が途切れない様に、支援している。</p>	<p>夫のお墓詣りの要望が出たときは、お墓を捜して行った。喫茶店でモーニングを食べた思い出を話された時は喫茶店に行ってモーニングを一緒に食べた。要望が出たら出来ることはなるべく直ぐすることにしてる。</p>	<p>思いがなかった時の入居者はさぞ喜ばれたことと推察する。これからも馴染みや、思い出の場所への支援をお願いする。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者様の個々の思いを把握し大切に、状況に応じた対応に努めている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>大切な方であるという思いを共有し、電話や訪問などで、継続したお付き合いをしている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望に添える様に努め、関わりの中で気づきを得ながら、家族様に相談し検討する。	入居者が思いを表出できることに重心を置いた支援を心掛けていますので、職員もきめ細かい汲み取りを試みている。	高齢になり思いの表出の困難な入居者の思いの汲み取りは職員の「汲み取り力」にかかっていると云える。さらなる研鑽を期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	会話の中から忘れていた記憶・大事な思い出・生活歴が把握出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしぶりが、予測可能な当たり前の過ごし方となり、おのずと個々に有する力を発揮出来る様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	得意な事、好んでされる事を暮らしの中から得て介護計画に反映している。	介護計画は毎日の気づきの積み重ねとサービスの試しから実施に向け計画に入れる。主治医の勉強会の内容を盛り込んで3か月毎に計画を作成し家族には認印をもらっている。	きめ細かい介護計画の作成で「寝たきりにならない介護計画作り」に腐心されている様子がうかがえた、さらに継続されたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画・実施・振り返り・再評価を繰り返す中で全職員は情報を共有し、気づきから即実践した事を介護計画の反映に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望に添える様に家族様と相談しながら、個々に合わせたサービスの提供が出来る様にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が今まで活用してこられた地域資源を現在も継続して活用できる様に、地域の方々にも協力してもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当医療法人にて定期受診と体調不良時の受診の付き添い支援を行っている。可能な場合は、家族様にも付き添い支援を行ってもらっている。	日ごろの様子と違うとすぐ階下の経営母体である高石病院を受診する。訪問看護は週2回であるが、看護師長は頻繁にホームに来て入居者を診ており、旅行時は同行する。入居者のかかりつけ医受診の付き添いには1回1000円の費用徴収している。	経営母体が病院ということもあり、看護師長が頻繁にグループホームを診に来られること、また入居者の希望のかかりつけ医受診の支援もしている。日ごろの体調変化に気を配りより良い医療を継続されたい。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>週2回看護師に訪問して頂いている。その際に利用者様の状態を報告・相談を行いアドバイスを頂いている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時に利用者様の負担が少しでも軽減出来る様に、担当医師、家族様と相談しながら、早期退院となるように支援している。</p>		
33 12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>早期の段階で本人の希望を伺い、その意向を元に今後の方針・支援内容を全職員で話し合う。重度化した場合の方針・看取りの指針について家族様に説明同意を得た上で、主治医、看護師と共に支援していく。</p>	<p>入居時に全員に意志の確認を行う。本人や家族の意向をその都度聴き、医療看護と家族の連携のもと安らかな最期を迎えられるように心を尽くしている。今まで2人の看取りを行ってきた。</p>	<p>経営母体が医療機関であることで、看取り時において医療との連携が密であり、随時入院も出来、状況変化に対応しやすい。入居時や、変化のあった都度に本人家族の意向を聞いていることから、「意志の確認書」などを取り入れることも検討されたい。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急対応マニュアルに沿って急変や事故発生時に全職員が対応出来る様に訓練している。</p>		
35 13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>日頃から安全対策委員会からの指導を受け、年2回法人全体で避難訓練を行い利用者様・家族様にも参加してもらっている。</p>	<p>本医療法人の安全対策委員会の指導の下、年2回以上さまざまな場面を想定して訓練を行っている。消防署の指導で火元より離れ、非常階段があるベランダに避難することになっている。</p>	<p>前回の訓練時には2家族が参加した。今後も家族の参加を促していきたい。メーリングリストなども検討中である。備蓄品について安全対策委員会で検討、整備されたい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	<p>14</p> <p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>個人個人の性格やその時の精神状態、生活歴から、言葉かけや対応を注意して行っている。</p>	<p>2年前まで至れり尽くせりの介助をしていたが、一人ひとりの生活歴や個性に合った支援をし、出来るところから始め、役目や仕事を持つことで生き生きとされた。それが人格の尊重と考えている。</p>	<p>職員がしてしまう方が早く確実だが、それを待ってあげ、迷ったら入居者の気持ちを大切にという視点に戻るといことが、入居者の意志の発露を促している。今後とも継続していただきたい。</p>
37	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日頃のコミュニケーションの中で、本人の思いや希望を伝えられる様な場面を作り、言葉添えをして、その人らしく暮らせる様に支援している。</p>		
38	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>出来る事と出来ない事を見極めて全職員で話し合い、出来るだけ本人の希望に添う様に支援している。</p>		
39	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>行きつけの美容院がある利用者様は定期的に行く事によって、馴染みの方々との繋がりを継続しながら、おしゃれも楽しめる様に支援している。</p>		
40	<p>15</p> <p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>毎日の食事の準備を利用者様と職員と一緒に、利用者様に昔の事を思い出してもらいながら準備や片付けを行ってもらっている。</p>	<p>去年から、レトルト食からホーム内調理に変更した。前日に食材を届けてもらい、できる入居者は手伝って食事を作っている。朝食はパンかご飯かその日に選ぶことができる。浜寺公園でバーベキューをしたり、喫茶店のモーニング、お寿司のことを入居者が思い出すと直ぐ行くこともあり、外食も多くなっている。</p>	<p>介護度の重くなった入居者の方たちが寝たきりにならないように2人がかりで食卓についてもらい、嚥下、咀嚼ができるように口腔、顔マッサージをしたり細やかな心づかいをされている。お節など行事食も手作りしている、「食の楽しみ」満たすために、これからもさらに続けていただきたい。</p>
41	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>外注にてカロリー摂取量が保たれているも、個々の状態に応じて食事の提供を工夫している。1日の水分摂取量を把握した上で必要な水分量の確保に努めている。</p>		
42	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の歯磨き時に口腔状態を確認し、異常があれば歯科往診時に報告し、口腔衛生指導・治療を受けている。</p>		
43	<p>16</p> <p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々の排泄パターンを調べ、利用者様に合った誘導や声掛けを行い、気持ち良く排泄出来る様に支援している。</p>	<p>介護度にもよるが2年前からあまり干渉しないようにし、意志ある入居者には自分で行ってもらい、失敗したら今度は早めにいくことになり、それが機能回復に通じる。職員が皆すること自分からしなくなる、一人ひとりに合ったトイレのマニュアルで行っている</p>	<p>便秘対策では朝の水、乳製品、腹圧体操などを取り入れている。日々ミーティングで一人ひとりの検討を行っている、現在おむつ使用の入居者はいない。今後ともていねいな支援の継続をしていただきたい。</p>
44	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>生活リズムの改善に努め、散歩や適度な運動を行っている。便秘症の方だけでなく、全利用者様にしっかり水分補給をして頂ける様に工夫している。</p>		
45	<p>17</p> <p>○入浴を楽しむことのできる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>本人の希望に添う様に入浴時間や回数を配慮し、入浴時は楽しんで頂ける様に好みの音楽をかけた、季節感を味わって頂ける様に努めている。</p>	<p>週2～3回を目安に入浴している。一人ずつお湯、足ふきマットを換えている。お風呂に入らないという方が入居された時、その方の生活歴や気持ちに寄り添って無理せず、待ち続け、徐々に普通に入浴が出来るようになった例がある。</p>	<p>入浴は衛生面、心身のリラクセスに大切である。湯替えや足ふきマットも一人ずつ交換され衛生に特に配慮されている。これからも、楽しい入浴時間となる工夫の継続をお願いします。</p>

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	起床や就寝時間は本人のペースに合わせて、季節に応じて乾燥対策の為に加湿器の使用や安眠の為に湯たんぽを使用している。		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	処方ファイルにて内容を把握し、服薬時にも再確認を行っている。バイタルの異常時や日頃と様子が違う場合は看護師に相談を行い、必要時には受診している。		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	一人ひとりの好みに合わせた計画を立てたり、その日の状態・表情から楽しみとなる事を共に探している。又、食事の準備（野菜切り・調理）などは職員と共に行っている。		
49	18 <p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	天気の良い日には、気軽に出掛けられる様に支援したり、家族様の面会時には家族様との時間を大切にもらえる様に協力しながら支援している。	介護度の高い人でも小さいころから慣れ親しんだ盆踊りやだんじりになると歩く。昔岸和田城でサルを見たという話から、岬公園にサルを見に行くことになったら、意欲が湧いて歩く練習を始められた。藤祭り、イチゴ狩り、1泊旅行にも行くことがある。昔入居者だった方の命日のお参りや、知り合いの方がいるお寺にも出かける	外出することでホーム内と違って緊張感も出てみなさんしっかりされることである。これからも家族も巻き込んで楽しい外出ができることを期待する。
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	個々の希望に応じて小遣いを管理し、地域の催し物の参加・外食・喫茶店・食べたい物をスーパーに買いに行ったり、楽しむ事に使っている。		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	本人の希望に添える様に支援している。		
52	19 <p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	生けた花をリビングや玄関などに飾り、壁には季節感に合ったものを飾っている。又、目付が解かる様に利用者様お手製のカレンダーを飾り工夫している。	入居者だった方の家族が華道を教えに来て、花も活けてくださる。昔男物背広を仕立てていた入居者が中心となり、リビングに大きいフェルト製カレンダーを作って掛けてある。そのほか手芸小物も飾ってある。大人の雰囲気のあるリビングになっている。	大きなカレンダーは見やすく、色もオレンジ色を中心にし明るく仕立てられていた。マジックテープを使って一年中使える、発想も豊かである。今後とも手作りの作品でリビングやや玄関を飾っていただきたい。
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	玄関前には椅子を設置、リビングの壁際にはソファや椅子・窓際には金魚・メダカの水槽を置き、落ち着いた場所の提供をしている。		
54	20 <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	使い慣れた家具や思い出の品・写真などを持参して頂き、住み慣れた空間を提供出来る様に工夫している。	各居室は使っていた家具や仏壇を持ち込んで思いに副った部屋に設えられている。部屋に畳を敷いてベッドの横に布団を敷いて寝ている入居者もいる。若いころの写真や戦後すぐの写真なども飾られている部屋があった。	ほとんどの部屋は思いに副って自分の部屋とのたたずまいになっている。各部屋に時計は掛けていたが、カレンダーのない部屋が散見された。見当識後退防止のため、カレンダーの無い部屋には掛けていただきたい。
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	本人の自室には表札を付けて場所の確認が出来る様に文字や絵で工夫している。		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができていく	○ ①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない